

【大縄跳び（ハの字）を成功させよう】

東京都北区立豊川小学校・東北大学大学院情報科学研究科 佐藤和紀

1. 単元について

(1)学年と単元名(題材名)

- ・ 5年生 大縄跳びを成功させよう 5時間
- ・ 単元名 体づくり運動「大縄跳び」

(2)ねらい

大縄跳びを3分でより多く跳べるための工夫を、XBを活用して意見を出し合い、より多く跳べるための工夫をクラスで考えることができる。

(3)概要

第1次「現状と問題点を調べよう」1時間

初めてクラスで大縄跳びを行い、現状と問題点を把握する。

第2次「より多く跳べるための工夫を考えよう」1時間

①個人活動1

「大縄でより多く跳ぶためにはどんな工夫が必要か」という課題でXBに書き込みを行う。

②グループ（小集団）活動

XBで持ち寄った意見を4人で整理分類する。

③個人活動2

分類されたものを見て、上から優先順位を付けて自分の考えを並べたり、ピラミッドチャートで自分の件を並び替えたりして、その後に個人の考えを記述する。

④クラスで意見を交流する

まとめた意見を見せ合いながらクラスで交流する。

⑤xSyncで発表する

Pioneer xSyncで電子黒板に転送して意見を発表する。

⑥クラスで意見をまとめる

クラスで重点的に取り組むポイントを板書してまとめる

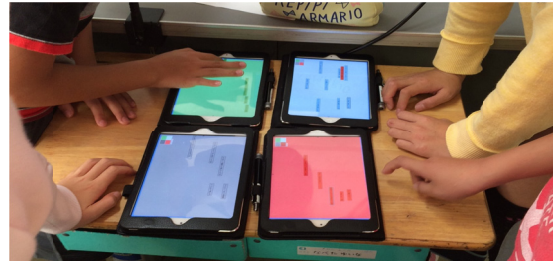
第3次「ポイントをふまえて練習しよう」3時間（本時）

- ・ ポイントをふまえて練習に取り組む
- ・ 体育集会で記録に挑戦する

2. 本時の活動について



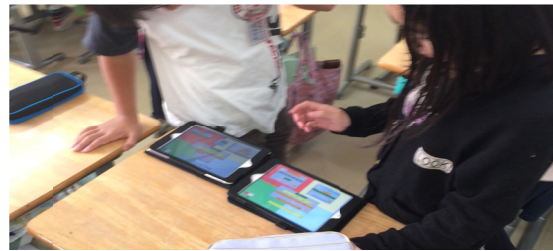
①個人活動



②グループ活動



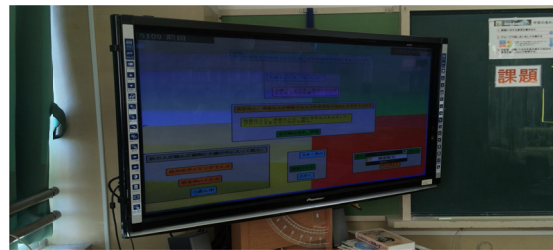
③個人活動2



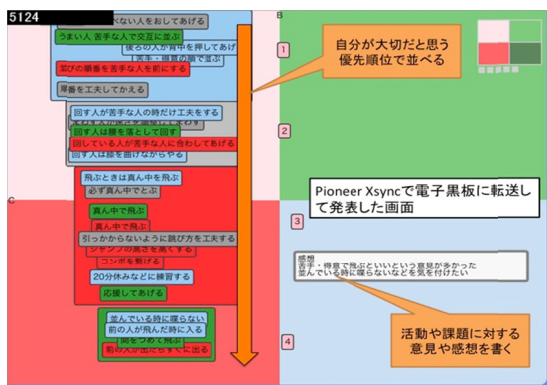
④クラスで話し合い



⑤xSync を活用して発表（発表シーン）



⑤xSync を活用して発表（電子黒板）



⑤xSync に転送した時の画面

以上の写真のような流れで授業が行われた。
①個人活動では大縄でより多く跳ぶためのクフを個人で付箋を作り、②グループでそれぞれの画面に分類した。この時、すでに友達の考えていることが自分とは違うことや同じ事に気づいている発言が多くなった。

③の2回目の個人作業では、分類したものを自分が考える優先順位を示して、感想を別に記入させた。

④クラスの友達へ iPad を見せながら自分の意見を発表した後に、⑤xSync を活用して全体で発表し、意見を共有した。最後にクラスで重点的に取り組むポイントを決定した。

実際の大縄では「XB でまとめた事を意識しよう！」という声を聞かれ、クラスで話し合っただけで決めたことに意義を感じて学習する姿が見られた。

3.XB 活用のポイント

この実践では XB と Pioneer の xSync との連携で行ったものである。XB で個人とグループを往復する活動の中で、活動が終わった際にはスクリーンショットをしておき、その写真を電子黒板に転送することが容易にクラスで発表することができる。またスクリーンショットを取っておくことで、あとで教員が児童の思考活動を振り返り、思考判断の評価に活用することもできる。